

「自立援助ホーム マルコの家」は様々な理由により家庭から支援の受けられない15歳～20歳の子ども達に社会自立を支援する場です。

## まるこ album

### 誕生会



祝18歳

! 20歳!

### 協働まつり

(マルコの家紹介&軽食販売)



### 花火

### イースター祭 参加 おやき屋さん



### オレンジリボン たすきリレー



## 「イオン・イエローレシートキャンペーン」に参加しています!

毎月11日にイオンさんで発行される黄色いレシート、レジ前の「マルコの家」のボックスに入れて頂けると合計金額の1%がイオンさんからギフトカードで寄贈されます。

レジ前で協力を呼び掛けていると「マルコの家って何?」と質問される事があります。

大まかな説明しかできないのですが、お話しすると「そう、知らなかった。こちらこそ宜しくお願いしますね」とおっしゃって下さる方もいて嬉しくなります。

今月は「どこかに入れよう」と思っていた方が、来月は「マルコに・・・」とってくれるように。

懸命に自分の力で生きて行こうとしている子ども達の理解者が増えますように・・・

そんな気持ちで協力を呼び掛けている。

今期(3月～8月)は3万円分のギフトカードを頂きました。

子ども達の福利厚生に、使わせて頂きます。

感謝



### 【雑感】

先日マルコの家に泊まりに行きまして、とても素晴らしい光景に出会いました。

ここで暮らしている子達はなかなか職も見つからず、いつも懐中不如意とっていましたら

ある娘さんが今月給与を頂いて来た、と1万円札を並べて「これは寮費」「これは電話代」

「これは化粧品代」「これは貯金」と職員に渡していました。

貯金が少しでも貯まると「今月はもっと働こう、もう少し儉約しよう」と人生ポジティブになり、その結果気持ちに余裕が生じてきます。若いのに感心な事だと私の若い頃の情けなさを恥じるばかりです。

誠に下世話に言う通りです。

「稼ぐに追いつく貧乏なし」或いは「A Rolling stone gathers no moss.」

柏倉 誠

※柏倉さんはマルコの家に来て下さる宿直ボランティアさんで、いつも穏やかに子ども達と接して下さいます。

実は柏倉さんの息子さんも宿直ボランティアに来て下さっていて、誠さんは子ども達から「お父さん」「おやじさん」と呼ばれ親まれています。

## 支援者の皆様へ



子ども達の自立に至るまでの援助として、ご寄付をお願いしております。

〈振込先〉 ゆうちょ銀行  
口座記号・番号 00110-5-314794  
加入者名 社会福祉法人 イースターヴィレッジ

社会福祉法人宛にご寄付して頂くと、所得税控除を受けられる場合があります。

【お問合せは下記までお気軽に】

〒328-0042

栃木県栃木市沼和田町14-28

自立援助ホーム マルコの家

☎0282-21-7740

✉ info-marc@easter-village.or.jp

### ○寄贈品、寄付金ありがとうございます。大切に使用させていただきます。H23.5.1～10.31○

島田 淳子 様	栃木県北児相 高槻 様	遠藤 様	高久タツミ 様
船田 様	群馬中央児相 金子 様	三松会 様	山田ブドウ園 様
生澤 英夫 様	新潟天使園 様	川島 様	五十嵐 孝 様
関口 尚 様	カトリック川口教会 様	新里 様	くらら 小林 様
関口 紀子 様	若山 浩子 様	佐藤 様	くらら 様

他にも沢山の方にご協力頂きました。ありがとうございました

### ♡近況報告♡

- ♪マルコの家ニューフェイス。いよいよ就職活動開始！(15歳)
- ♪コンビニでアルバイト中。朝は弱いけど頑張ってます。(17歳)
- ♪住み込みでの仕事が決まりました。引越し間近です。(17歳)
- ♪ホルモン焼き屋さんでアルバイト中(17歳)
- ♪食品工場勤務も間もなく1年。良く頑張ってます。来月から自動車教習所に行ってきます！！(17歳)
- ♪コンビニでアルバイト開始。高卒認定試験に向け猛勉強中(18歳)
- ♪バイト先の看板娘。今日もにっこり笑顔で頑張ってます(18歳)

### 【在籍状況】

	男	女	計
15歳		1	1
16歳			
17歳	1	3	4
18歳		2	2
19歳			
合計	1	6	7

H23. 10 現在

### 【編集後記】

開所から1年が過ぎ、20歳の誕生日を迎えた男の子が9月にマルコから巣立ちました。いろいろ問題もあったものの、就労継続、貯金、良く頑張ってくれたと思います。

しかし、正念場はここからです。

「一人暮らし」を始めた彼が「一人ぼっち」にならないように、彼が望む限りは今後も様々なかたちで関係性を続けていきたいと思っています。

マルコの家での毎日は「ライフ(生活)」であり「ライブ(実況)」でもあります。

日々子ども達から投げ掛けられる事にどう返していくか、常に自身の価値観が問われ、アドリブ力も要求されます。‘あるべき指導者像’というのは、専門家の方々が沢山本にされていて、私もそれを読んだ時は‘なるほどお’と思うのですが、いざ子ども達と対するとやはりいつも「まんまの私」になってしまうのです。

ある日は、仕事の事や生活の事でつい感情的になって子どもと言い争い・・・‘またやってしまった’と反省。

ある日は「所詮他人でしょ！」「心配とか言っても私の邪魔をする」「親って何？」と子ども達から投げ掛けられる言葉に一瞬ショックが隠せず思わず絶句・・・また反省、といった毎日です。

「指導員」という肩書を頂いておきながら「無責任だ」と叱られるかもしれませんが、これまで私の想像を超える過酷な人生を送ってきた彼らに、私が「指導」なんて御大層な事は出来ないのだと思います。

ただ傍でオロオロと心配し、時に目くじらを立て、ああしてみようか、こうしてみようか、と一緒に悩む事しかできず、そんな自分がもどかしいけれど、それが私にできる最大限の事なのだと思います。

そんな日々のゴタゴタを通しながらも、いつかここを巣立つ彼らが「自分は一人ぼっちじゃない」そう感じてくれますように、困った時はマルコに連絡をくれますように・・・いつもそう願っています。

スタッフ 野藤 